

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月21日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20360285

研究課題名（和文） 江戸藩邸作事における建設マネジメント手法に関する文理統合的研究

研究課題名（英文） The Interdisciplinary Research on the Management System of Construction of Buildings in Edo Estates in Early Modern Period

研究代表者

藤川 昌樹（FUJIKAWA MASAKI）

筑波大学・システム情報系・教授

研究者番号：90228974

研究成果の概要（和文）：

本研究は、江戸藩邸の建設後に作成された「作事記録」を分析することで、近世の巨大構築物がいかなるマネジメント手法で建設されたかを解明したものである。このマネジメント手法とは、建設に必要な様々な行為（資金・人員・材料・時間の確保・管理など）を指す概念であり、近世建築・都市及びそれらを建設した社会の理解を深めることを意図した。主たる対象としたのは萩藩江戸藩邸である。同藩の作事記録の翻刻・分析を中心とし、他藩の事例と比較しながら研究を進めた。

研究成果の概要（英文）：

Based upon the analyses of “*sakuji kiroku*” (construction records compiled after the completion of Daimyo mansions in the city of Edo), this study aimed to clarify what kinds of management methods made it possible to construct enormous buildings in the Edo period. The concept of construction management methods here means the acquisition and control action of money, staff, materials, and time in order to complete construction. Through the understanding of the methods, we tried to realize the characteristics of architecture, city and society of the Edo period. Although the main objects of analyses were the construction records of Hagi clan's Edo estates, we compared other clan's records with Hagi clan's ones.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2009年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2010年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011年度	3,000,000	900,000	3,900,000
年度			
総計	13,400,000	4,020,000	17,420,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学、建築史・意匠

キーワード：建築経営、作事記録、萩藩、近世都市、直営工事

1. 研究開始当初の背景

江戸藩邸の建築に関する建築史分野の研究は戦前の大熊喜邦以来の伝統を有する。とくに戦後大名家史料が公開された後は著しく進展し、平井聖・内藤昌・西川幸治・佐藤巧らが1960年代から70年代にかけて多くの研究を発表した。この結果、建築の構成・様式上の知見は数多く蓄積されてきたが、一方で未検討のまま放置された課題も少なくなかった。

その一つに、巨大で複合的な構成を持つ江戸藩邸の建築を、誰がどのようにして建設したのか、すなわちいかなるマネジメント手法のもと建設したのかが未解明のままであるという問題があった。国元に拠点を持つ大名達が江戸という大都市で藩邸を建設するには、様々な困難とそれに対する工夫があったはずであり、またそれらは時代によって大きく変化しただろうと容易に推測することができる。だが、これまで本格的な検討が行われたことはなかった。

本研究の上記のような問題意識は、これまで建築生産史の分野で行われて来た研究のそれに近い。しかし、近世の建築生産史に関していえば、伊藤ていじや宮沢智士による一連の民家の普請帳を扱った研究（伊藤ほか『永富家住宅普請帳』1969、宮沢『近世民家普請の研究』1981）、西和夫による本途帳の研究（『江戸建築と本途帳』1974）、永井規男による生産システムの通史（『新建築学大系』建築生産システム、1982）の中での言及などの例外はあるものの、概して中井家や各地の大工組など大工組織に着目するものが多く（平井聖『中井家文書の研究』1976-85、川上貢『近世建築の生産組織と技術』1984、谷直樹『中井家大工支配の研究』1992など）、1980年代までの主流を占めていた。1990年代以降では、近世建築史研究自体が停滞する中で、それを成り立たせる背景についての関心も薄らいでいた。

その意味では、むしろ日本史学の分野で建築行為を社会的な事象として位置づけ、その政治性に迫った研究（山本信吉他『社寺造営の政治史』2000年、白峰旬『幕府権力と城郭統制』2006年など）が相次いで発表されているのが注目された。

しかしながら、いずれの研究においても建設行為の実態に肉薄しながらマネジメント手法を理解しようとする視点は育っておらず、これまでの両分野の蓄積に学びながら、建築史・日本史の研究手法を統合する形で研究を進展させることが最も必要とされていた。

2. 研究の目的

本研究は、江戸藩邸の作事に際して作成された浩瀚な「作事記録」を分析することによ

り、江戸時代の都市における巨大構築物の建設がいかなるマネジメント手法のもと達成されたかを解明しようとするものである。ここでいう建設マネジメント手法とは、建設プロセス全体を成り立たせるために必要な様々な行為（資金・人員・材料・時間の確保・管理など）を指す概念であり、江戸時代に特に急速に発達した管理技術である。この手法の理解を通じて近世建築及び都市、ひいてはそれを建設した社会の理解を深めることを意図した。

本研究が主史料として用いる「作事記録」とは、仮に付した名称であり、各藩において一度の作事の終了後に関連する文献史料を筆写・集成して作成されたものである。その内容は、建築行為に及んだ理由（類焼後の再建、婚姻・招請による改築など）、建築資金の調達方法と使途、人員（事務官僚、職人等）の配置、材料（材木、瓦、釘・鉄物、土、植木等）の入手、建築儀礼（地鎮、手斧初、棟上等）の実施、現場管理法令（入退出方法、火災防止等）、不正防止などに及んでいる。極めて詳細で膨大な情報を含んでおり、建築物の建設をそのマネジメント手法に即して理解することを可能とする史料である。

主たる対象として設定したのは萩藩江戸藩邸である。この藩邸については、14点もの作事記録が残されている。時代は享保16年（1731）から天保12年（1841）年までの110年に及び、また1点あたり150-400丁もの豊富な内容を持った本格的な作事記録であり、江戸時代の建設マネジメント手法を理解するための一級の史料群である。同藩の作事記録の分析を中心として、他藩の事例を比較対象として参照しながら研究を進めた。研究者全員が研究期間内に著書・論文を執筆し、シンポジウムを開催して口頭発表を行った上で、出版助成に申請することを直接の目的とした。

3. 研究の方法

(1) 「作事記録の会」の継続開催と積文作成
月に1度のペースで「作事記録を読む会」を開催し、未検討の作事記録の積文を作成した。作成した積文はデータベース化し、次の作業に進むための基礎的な準備を施した。

(2) 積文の編集と校注の作成

これまでに作成してきた積文をDTPソフトウェアを用いて編集し、出版可能な状態に整えた。また、「作事記録」には特に建築用語中に解釈の難しい用語が頻出するので、編集後の積文を繰り返し読み込み、これらの表現の意味を確定する作業を行った。

(3) 藩邸絵図のCAD図化

萩藩には近世初頭以来の江戸藩邸絵図も豊富に残されている。既に5枚の図のCAD化を終えていたが、引き続き上屋敷絵図を中心

にCAD化を進めた。また、他藩の藩邸絵図の図化も試みた。

(4)分析

近世中・後期の作事記録の積文を、次の諸点に着目して分析した。

- A 建築資金の調達と管理
- B 直営工事と請負工事
- C 工事における職人・日雇の編成
- D 建設資材の調達
- E 建築儀礼と工程管理
- F 藩邸の空間構成と建設マネジメントの関係の把握

(5)他藩の作事記録調査

これまでの作事関係史料調査で十分調査できなかった萩藩以外の諸藩の調査を実施した。

(6)研究会の開催

研究打ち合わせ及び分析結果についての報告会を各年度2回ずつ行い、最終年度の報告会は公開シンポジウムの形式で実施した。

4. 研究成果

2008年度には、「作事記録の会」を計11回開催し、「江戸上御屋敷普請記録」(毛利家文庫8館邸11)の輪読・積文作成を進めると共に、これまでに作成してきた積文のうち「江戸三御屋敷新御作事記録」(同8館邸16)をDTPソフトウェアにより編集し、出版可能な状態に整えた。また、「桜田御屋敷差図」(同58絵図487)、「江戸桜田御屋敷之図」(同58絵図484)のCAD図化、「江戸上御屋敷中御屋敷新御普請之次第」(同8館邸17)等の未翻刻史料の積文作成、これまで入手した絵図・文献史料の電子化及び研究者間での共有化を行った。

さらに、打ち合わせ及び成果報告を兼ねた研究会を2度(2008年8月於筑波大学及び2009年1月於山口大学)開催した。2008年8月の研究会では、渋谷「大名江戸屋敷「御長屋」の「補理」、岩淵「松代藩真田家の江戸作事関係史料について-安政大地震後の「御殿御普請一件」を中心に」、宮崎「萩藩麻布屋敷の作事と絵図」の三報告を得るとともに本研究計画について合議した。2009年1月の研究会では、高屋麻里子(筑波大学研究員)「萩藩江戸桜田上屋敷の玄関周辺の変遷-「江戸上屋敷普請記録」による「御式台」の復元をとおして」、藤川「土井家京都邸の構成について」、森下「明暦2年萩藩上屋敷普請関係史料」の三報告を得た。また、山口県文書館における史料調査も実施し、絵図のCAD図化に際して必要な知見を得るとともに、関連文献史料の調査・撮影を行った。

2009年度には、「作事記録の会」を計10回開催し、「江戸上御屋敷普請記録」(毛利家文庫8館邸11)の輪読を終えて、新たに「桜田御普請諸沙汰控」(同8館邸18)の輪読・積

文作成を進めると共に、4葉の萩藩中屋敷図(同58絵図482・495・496・497)のCAD図化、山口県文書館における補足調査の実施(2009年12月)、また日本建築学会大会(東北学院大学)での研究報告などの個別テーマの追求を行った。

さらに、打ち合わせ及び成果報告を兼ねた研究会を2度(2009年8月於東京大学及び2010年1月於国立歴史民俗博物館)開催した。2009年8月の研究会では、森下「岩国藩による赤穂藩蔵屋敷買取関係史料」、渋谷「赤穂藩浅野家の絵図について」、宮崎「慶長-元和期の萩藩江戸屋敷」、高屋「萩藩江戸上屋敷式台建築の構成とその変遷」、藤川「萩藩江戸上屋敷式台建築の寛延度作事体制」の5報告を得た。2010年1月の研究会では、高屋「鷹司様御招請記録ほかにみられる屋敷の使用状況について」、渋谷「赤穂浅野家「鉄砲洲上屋敷絵図」について(その2)」、宮崎「高田藩榊原家の池之端屋敷の絵図」の3報告を得ると共に、歴史民俗博物館所蔵の小浜藩藩邸関係史料・江戸城関係史料の調査を行った。

2010年度には、「作事記録の会」を計9回開催し、「桜田御普請諸沙汰控」(山口県文書館「毛利家文庫」8館邸18)の輪読を終えて、新たに「桜田上御屋敷・御中屋敷新御普請之次第」(同8館邸17)、の輪読・積文作成を進めると共に、山口県文書館における補足調査の実施(2011年1月)、また日本建築学会への論文投稿(2編)などの個別テーマの追求を行うと共に、史料集の出版助成を申請した(不採択)。

さらに、打ち合わせ及び成果報告を兼ねた研究会を2度(2010年9月於筑波大学及び2011年1月於山口大学)開催した。2010年9月の研究会では、宮崎「萩藩の作事記録と江戸屋敷絵図」、高屋「式台にみる萩藩江戸上屋敷の変遷と和姫住居」、藤川「萩藩江戸上屋敷式台建築の寛延度作事における建設マネジメント」、森下「史料紹介：岩国徴古館「江戸御屋敷御普請方」(その1)」の4報告を得た。2011年1月の研究会では、加藤悠希(日本学術振興会特別研究員)「明和・安永度作事について-坪単価・請負単位の検討から」、宮崎「桜田御屋敷差図」(毛利家文庫58-487)について、高屋「萩藩江戸藩邸作事記録にみられる建具と屋敷空間の関係について」、藤川「江戸藩邸作事の展開過程について」渋谷「萩藩江戸屋敷の建築儀礼について」、森下「岩国藩江戸屋敷の再建普請について」、岩淵「史料紹介：松代藩「所々御普請御積書類品々留帳」」の7報告を得た。

2011年度には、「作事記録の会」を計9回開催し、前年度から引き続き「桜田上御屋敷・御中屋敷新御普請之次第」(山口県文書館毛利家文庫蔵8館邸17)の輪読・積文作成を進めると共に、「江戸桜田屋敷差図」(絵図

名誤り、実は新シ橋中屋敷絵図、同 58 絵図 482)、「江戸桜田御屋敷差図」(嘉永四年写、同 58 絵図 486) の CAD 図作成を行う一方、研究者個人がこれまで作成した CAD 図・釈文の分析を行いつつ個別テーマの追求を行った。また、最終年度にあたるため研究のまとめにも注力し、史料集『萩藩江戸屋敷作事記録』の出版助成を再度申請し採択された。研究成果を発表するシンポジウム「江戸大名屋敷作事記録を読む」を 2011 年 11 月 27 日(日)に開催し、多数の参加者を得た(於筑波大学東京キャンパス文京校舎)。このシンポジウムでは、宮崎「大名江戸屋敷の作事と作事記録」、高屋「絵図と記録にみる萩藩江戸上屋敷の変遷」、加藤「萩藩江戸屋敷の造営費と坪単価」、渋谷「萩藩江戸屋敷の建築儀礼」、森下「岩国藩江戸屋敷再建普請と町人社会」、岩淵「幕末期松代藩江戸屋敷の作事について—大規模作事と小規模作事—」、藤川「萩藩江戸屋敷作事における「手作事」と「請負」」の 7 報告を得た。

研究全体を通して、江戸藩邸の建設が、藩邸建築の複合的な性格に対応するため、極めて複雑なマネジメント手法によって実施されていたこと、そしてその手法は近世の中期から後期にかけて徐々に変化していたことが判明した。

これは本研究で実施した分析の各項目にわたって確認されることだが、萩藩邸の建設における材木・大工の調達に関して述べるなら、中期には材木・大工の調達が江戸・国元の両者で行われ、材木の調達に調達場所の大工が関与していたのに対し、後期には材木の調達と大工の調達が分離し、材木の調達先が大坂に広がって広域化する一方で、江戸には主として大工の調達に関して依存するようになったことを指摘しうる。

しかし、分析対象とした作事記録の性格に規定されて江戸時代初期の実態が依然として不明であること、作事記録の豊富な情報量に対して分析が限られていることなどの課題も残った。これらの課題は今後も研究を継続することで克服していきたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 8 件)

- ①岩淵令治、「境界としての江戸城大手三門—門番の職務と実態—」、東京大学史料編纂所研究紀要、22、pp. 249-266、2012、査読無。
- ②藤川昌樹・高屋麻里子、「萩藩江戸上屋敷式台建築の寛延度作事における建設マネジメント」、日本建築学会計画系論文集、663、pp. 993-1101、2011、査読有。
- ③Morishita Toru, “Les guerriers keurs domestiques dans la ville seigneuriale de Hagi”, Annales, 66annee-4, pp.

977-1004, 2011, 査読有。

- ④岩淵令治、「近世大名家の葬送儀礼と社会」、国立歴史民俗博物館研究報告、169、pp. 353-428、2011、査読有。
- ⑤高屋麻里子・藤川昌樹、「式台にみる萩藩江戸上屋敷の変遷」、日本建築学会計画系論文集、661、pp. 689-694、2011、査読有。
- ⑥岩淵令治、「江戸城警衛と都市」、『日本史研究』、583、pp. 76-96、2011、査読有。
- ⑦岩淵令治、「江戸の治安維持と防備」、『歴史と地理』、640、pp. 1-17、2010、査読無。
- ⑧岩淵令治、「庄内藩士江戸勤番武士の行動と表象」、国立歴史民俗博物館研究報告、155、pp. 21-58、2010、査読有。

[学会発表] (計 5 件)

- ①藤川昌樹、「大名屋敷の建築：参勤・御成・作事」、資料館講座「江戸の大名屋敷を探る」、港区立港郷土資料館、東京都、2012 年 3 月 23 日。
- ②高屋麻里子・藤川昌樹、「萩藩江戸上屋敷大書院の変遷」、日本建築学会大会、早稲田大学、東京都、2011 年 8 月 25 日。
- ③渋谷葉子、「尾張藩市谷上屋敷の表と奥」、えどはくカルチャー 江戸東京たてもの園特別展「武家屋敷の表と奥」関連講座、江戸東京博物館、東京都、2011 年 5 月 11 日。
- ④高屋麻里子・藤川昌樹、「萩藩江戸上屋敷式台建築の構成とその変遷—「作事記録」を用いた江戸藩邸建築の研究(1)—」、日本建築学会大会、東北学院大学、宮城県、2009 年 8 月 28 日。
- ⑤藤川昌樹・高屋麻里子、「萩藩江戸上屋敷式台建築の寛延度作事体制—「作事記録」を用いた江戸藩邸建築の研究(2)—」、日本建築学会大会、東北学院大学、宮城県、2009 年 8 月 28 日。

[図書] (計 5 件)

- ①渋谷葉子ほか、『千代田区永田町一丁目遺跡—中央合同庁舎第 8 号館整備等事業に伴う発掘調査—』、財団法人東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター、118 頁、2011。
- ②森下徹(吉田伸之・伊藤毅編)、「萩城下の都市民衆世界」『伝統都市 1 イデア』、東京大学出版会、pp. 131-156、2010。
- ③森下徹(塚田孝編)、「萩藩大坂蔵屋敷の成立」『身分的周縁の比較史』、清文堂出版、pp. 31-59、2010。
- ④渋谷葉子、「牛込下屋敷と徳川家光一将軍御成の—様相—」『酒井忠勝と小浜藩矢来屋敷』、新宿歴史博物館編、pp. 91-100、2010。
- ⑤宮崎勝美、『大名屋敷と江戸遺跡』、山川出版社、101 頁、2008。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤川 昌樹 (FUJIKAWA MASAKI)
筑波大学・システム情報系・教授
研究者番号：90228974

(2) 研究分担者

宮崎 勝美 (MIYAZAKI KATSUMI)
(2008年度～2009年度、退職のため辞退)
元東京大学・史料編さん所・教授
研究者番号：60143533

森下 徹 (MORISHITA TORU)
山口大学・教育学部・教授
研究者番号：90263748

金行 信輔 (KANEYUKI SHINSUKE)
(2008年4月～12月、休職のため辞退)
千葉大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号：90335703

岩淵 令治 (IWABUCHI REIJI)
国立歴史民俗博物館・研究部・准教授
研究者番号：90300681

渋谷 葉子 (SHIBUYA YOKO)
公益財団法人徳川黎明会・徳川林政史研究
所・非常勤研究員
研究者番号：70462257